認知症は早い段階で気づくことが大切です。認知症の経過に伴い、利用できる支援が変わってきます。※症状の強さなど、個人差があります。

発症前

軽度認知障害(MCI)

認知症はあるが、日常生活は自立

日常生活に手助け・介助必要

- 約束をうっかり忘れる。
- ・今までしていた料理等が面倒くさくなる。
- ・名前が思い出せない。
- 無頓着でおしゃれをしなくなる。
- ・自動車運転では傷が増え急発進や急ブレーキが増え
- ・同じ事を何回も言ったり聞いたりする。
- 物をしまったのを忘れる。盗られたと言う。
- 慣れたところでも、道に迷う。
- ・買い物では同じ物ばかり買ってくる。
- 鍋こがしなどの火の不始末がある。
- ・計算ができずお店での支払いにお札を出して小銭が増え
- ・金銭管理など今までできていたことにミスが目立つ。
- 規則的な生活を心がけましょう。
- ・趣味や得意な事、できる事を生活に取り入れましょう。
- ・出来る範囲での役割を継続しましょう。
- かかりつけ医の受診を継続しましょう。
- ・かかりつけ医から専門医を紹介された場合は受診しましょ
- カレンダーで日時をチェックしましょう。
- ・大事な事や、出来事を書きとめましょう。
- ・火の元に注意しましょう。
- ・介護保険サービスの利用を検討しましょう。
- ほやねっとに相談しましょう。
- ・地域の行事へ参加するなど、繋がりを継続できるよう支援 しましょう。
- ・本人のできる事(家事や掃除等)は見守りや声かけで一緒 に行い、役割を持ってもらいましょう。
- ・時計やカレンダーで時間や日にちを分かりやすくする工夫 をしましょう。
- ・病院受診に同行し、病状を理解しましょう。
- 内服ができているか確認しましょう。
- ・お金等大切なものの管理を手伝いましょう。
- ・簡単な言葉で伝え、急がさないようにしましょう。
- ・同じ話をしても否定しないで、話を聞きましょう。
- ・同じ話を繰り返す時は場面を変えましょう。
- ・幻視の訴えは受け止め、否定しないようにしましょう。
- ・家族以外の人の言うことを聞くことが多いので、介護負担 が多くなれば、相談機関を活用しましょう。

家の中でも迷子になる。

季節に合った服を着ることができない。

- ・内服管理、金銭管理ができない。
- 会話のキャッチボールができなくなる。
- ・体内時計の調節ができなくなり、不眠、昼夜逆転になりやすい。

誰かの見守りがあれば、日常生活は自立

・歯や口の手入れをしなくなる。

- 過去の記憶も失われていく。
- ・親しい人や家族が認識できなくなる。
- 言葉数が少なくなる。
- 表情が乏しくなる。
- ・食べ物が飲み込みにくくなり、肺炎を起 こしやすくなる。

- ・バランスの良い食事や定期的な運動をとり入れ、規 則的な生活を心がけましょう。
- ・今までしていた家事など、出来ることに取り組みま しょう。
- ・地域の行事、ボランティアなどの社会参加や趣味を 楽しみましょう。
- ・もの忘れを感じたら、早めにかかりつけ医に相談し ましょう。
- ほやねっとに相談しましょう。
- ・薄暗い時間帯は運転しないなど、自動車運転に注意 しましょう。
- ・バランスの良い食事に気を付け、規則正しい生活を 心がけましょう。
- ・本人と一緒に食事を摂ったり、会話をしましょう。
- ・いつもと変化はないか、本人に関心を持ちましょう。
- ・かかりつけ医や内服薬の有無を把握しましょう。
- ・おかしいと思った時には、受診に同行し、相談しま しょう。
- ・忘れやすいことには張り紙や目印を付けるなど、工 夫しましょう。
- ・部屋の中に物を置きすぎないようにしましょう。
- ・適切な時期に免許返納を促し、本人が自動車に乗ら なくてもよいような生活支援を考えましょう。

- ・介護保険サービスを利用しましょう。
- ・定期的に受診を継続しましょう。
- ・道に迷って行方不明になる等、万が一のことに備えて検討しまし よう。
 - ○GPS機能のついた携帯電話
 - ○行方不明高齢者事前登録
- ・金銭管理や契約などに不安がある場合は、ほやねっとに相談しま しょう。

- 生活全般の支援を受けましょう。
- ・脱水に気を付けましょう。
- ・肺炎の予防のため、口腔衛生に気を付け ましょう。



- ・朝、昼、夜や季節を感じる声かけをしましょう。
- 季節にあった服装を確認しましょう。
- ・トイレの場所がわかるように、目印をつけておきましょう。
- ゆっくり短い言葉で少しずつ伝えましょう。
- ・本人の思いにとことん付き合う時間を持ちましょう。
- ・どんな心配事、危険なことがあるか、家族や支援者と話し合って おきましょう。
- ・万が一の徘徊等に備え検討しましょう。
 - ○着ている洋服に住所、名前を書きましょう。
 - ○銀行や商店街、交番など、本人がよく行く所に声をかけてお きましょう。
 - ○行方不明高齢者事前登録
- ・家族以外の人の言うことを聞くことが多いので、介護負担が多く なれば、相談機関を活用しましょう。

- ・合併症(肺炎や脱水)などが起こりやす くなります。体調管理に注意していきま しょう。
- ・口腔内を清潔にし、肺炎を予防しましょ
- ・言葉が出なくなれば手を握る、背中をさ するなどスキンシップを心がけ、心地よ さや安心感を与えるようにしましょう。
- ・介護に疲れたら、サービスを利用し、休 息をとりましょう。



1. 介護者自身が抱え込まず、健康管理を行いましょう。正しい接し方や介護のコツを学び、気軽に愚痴を言い合える仲間を作りましょう。

- 2. 介護サービスや家族会などの社会資源を活用し、介護に関して気軽に相談できる相手を見つけていきましょう。
- 3. 元気なうちから、治療方針、お金、延命、相続などの本人の意思を確認し、家族でも話し合っておきましょう。

(参考) 認知症ケアパスの詳細版、サービス一覧は以下をご覧ください。

福井市ホームページ

http://www.city.fukui.lg.jp/fukusi/kfukusi/ninchisyo/p015770.html 「福井市認知症ケアパス」でも検索できます。

	発症前	軽度認知障害(MCI)	認知症はあるが、日常生活は自立	誰かの見守りがあれば、日常生活は自立	日常生活に手助け・介助必要
予防 社会交流	自治会型デイホーム・介護予防教室・よろず茶屋、民間フィットネス 総合事業 通所介護・通所リハビリ・認知症対応型通所介護・訪問介護・訪問介護・小規模多機能型居宅介護 ひとり暮らし給食サービス(会食)				
安否確認 見守り	緊急通報システム・見守りネットワーク・警察・消防・民生委員・福祉委員・配食サービス 小規模多機能型居宅介護・訪問介護・定期巡回随時対応型訪問介護				
生活支援	通所介護・通所リハビリ・訪問介護・訪問看護 配達配送サービス・配食サービス・えがおでサポート・移動販売車・お買い物バス・買い物代行・地域の社会資源				
医療	かかりつけ医・サポート医・専門医療機関、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局・訪問看護 認知症検診 ・ 認知症初期集中支援チーム				
家族支援相談	ほやねっと(地域包括支援センター)、居宅介護支援事業所、福井市介護保険課 認知症カフェ・認知症の人と家族の会・介護者のつどい、男性介護者のつどい、かたらい会、若年性認知症の人と家族の会、若年性認知症相談窓口				
緊急時支援	緊急通報システム・オアシスキット・嶺北認知症疾患医療センター・警察・消防・精神科救急情報センター 小規模多機能型居宅介護・短期入所生活介護・短期入所療養介護				
住まい権利を守る			自宅・高齢	齢者向け専用住宅 グループホーム(認知症対応型共同住宅)	
	介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・特定施設 消費者被害の相談				
			日常生活自立支援制事業	成年後見制度	